

○研究主題

「『分かる』『できる』授業(活動)を目指して」～主体的に活用できる情報提示の工夫～

○研究主題設定の理由

(1) 子どもの実態から

子どもの特性や環境

聴覚情報を受信することの困難さ	視覚情報の優位さ
集団の中での体験の少なさ	

子どもの困り感

分からない・できない・自信がない
伝わらない・分かってもらえない
周りとうまく関われない・集団生活が苦手

子どもの思い

知りたい・できるようになりたい
表現したい・伝えたい
みんなと一緒に楽しみたい

(2) 新学習指導要領から

幼稚園教育要領、小学校及び中学校、高等学校の学習指導要領の前文より
(平成 29 年 3 月に告示)

「一人一人の幼児・児童・生徒が、(将来、)自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが(するための基礎を培うことが)求められる。」

ありのままの自分を受け止め、自分のよさや可能性を実感することができる
他者の存在を意識し、自分とは異なる立場や考え方を尊重し、認めることができる
一人では難しいことも仲間と共に活動することで、お互いのよさを生かし苦手な面を補い合いながら乗り越えられるという体験を重ねることができる

未知なる社会の変化に立ち向かい、よりよい人生を切り拓いていく力

「分かる」「できる」授業(活動)を目指して～主体的に活用できる情報提示の工夫～

子ども達が情報を主体的に活用できるための研究

情報を確実に伝えるには?
↓
伝わったことを評価するには?
◎情報を活用して、子ども自身が「考える」には?

専門性向上のための研修

効果的な情報提示の方法を検討する	考える力が育つ道筋を知る
主体的・対話的で深い学びについて考える	ことばが育つ道筋を知る

